全戸配布

五ケ丘まちづくりニュースレター

第2号

五ケ丘まちづくりワークショップを開催しました！

五ケ丘のまちづくりを住民と行政が一緒に考える取組として、２月１日（土）に「五ケ丘まちづくりワークショップ」を益富交流館で開催し、３６名の方が参加しました。

今回のワークショップは、五ケ丘地区まちづくりアドバイザーの牧野篤（まきのあつし）教授（東京大学大学院教育学研究科）にファシリテーター（進行役）をお願いし、住民の意見を作り上げるＫＪ（ケージェイ）法※を体験しました。

今回の動きをきっかけに、住民が主体となって地域を盛り上げていきたいと思いますので、引き続き、積極的なご参加やご協力をお願いします。

※ＫＪ法とは、１人１人の意見やアイデアをグループ化、文章化することで、情報を整理していく方法です。

ワークショップの様子

誰にとっても身近な「学校」をテーマに取り上げて、ＫＪ法を学びました

ファシリテーター
（進行役）

牧野教授

＜発表内容＞
・友達がたくさんできたり、給食が美味しかった楽しい思い出の場所
・勉強や運動、集団生活、仲間づくりを通して子どもと親が成長する場所
・子どもだけでなく保護者同士がつながる場所・地域住民の避難所として必要な場所　など

参加者の声

参加者からいただいた感想を紹介します

・「学校」というテーマでグループ内で和気あいあいと話ができて良かったと思います。
・住民参加のまちづくりの起点として良い経験ができました。今後も是非参加したいと思います。
・将来の住民である子ども世代もワークショップに参加し広く議論していってほしいです。
・住民が主体となって話し合いをしていくことを意識したいと思いました。
・時間の問題があったと思いますが、本題に入れなかったのが残念です。

意見交換、質疑応答

参加者からの質問に対して、牧野教授、豊田市で回答しました

（質問）五ケ丘の住民はまちづくりを進めていく資質はあると思うか？
（回答）本日のワークショップで参加者同士がお互いに尊重して楽しく話をしていた様子を見ることができたため、五ケ丘の住民はまちづくりを進めていく資質があると確信した。

（質問）他市の事例で、若い世代が維持できている団地の事例があれば教えてほしい。
（回答）千葉県のユーカリが丘は、単身世帯、子育て世帯、高齢世帯などライフステージに併せて住み替えができる住宅が整備され、団地内で住み替えが可能となっている。

（質問）学校再編が一番気になっているため、事例や他市で起きている問題を教えてほしい。
（回答）住民は理屈では理解しているが、母校が無くなることや、学校が遠くなることを受け入れられずに反対運動が起こる例が多い。一方で、保護者の中でもクラス替えができることや部活動の選択の幅が広がることで賛成する人もいる。住民の意見が割れたまま学校再編が進むと、住民に使われない施設が地域に残って、最終的に行政が民間に処分する流れになる。この流れは地域にとっても不幸なため、事前に住民が受け止めて、学校のあり方を議論していくことが重要になると思う。

（質問）学校や運動広場といった公共施設の動きをほとんど知らなかったため、住民に広く知ってもらうための情報発信を市は積極的に行わないのか？
（回答）情報発信の仕方については、所管部署に伝えます。

今後について

本日のワークショップで、まちづくりに関心を持っている方が五ケ丘に多く住んでいることがわかり、有意義な時間を持てたと思います。来年度も引き続きワークショップを開催して、五ケ丘の将来像を一緒に作っていきたいと思います。
興味のある方は次回ワークショップのご案内をお送りしますので、以下の電話番号またはメールアドレスにご連絡ください。

【発　行】五ケ丘自治区連合会、豊田市（高橋支所地域振興担当）令和７年３月
【連絡先】電話：８０－００７７、メールアドレス：takahashi-shisho@city.toyota.aichi.jp